

全久院報

平成16年6月20日
全久院住職 倉科利行

平成16年もすでに半年が過ぎようとしています。半年間の全久院の動きをお知らせします。

新年総会

新年総会は毎年1月20日の午後4時から始まります。檀家の皆様全員に通知を出すことができませんので、以前からご出席いただいた方にお知らせしていますが、どなたに来ていただいても結構です。宗務所や教区での研修会などの報告、護持会会計の報告など行います。今年は特に、消防署より指摘のあった火災報知器と消火設備の設置を3年以内に行わなければならないことを了承いただきました。資金は、宗教法人と、護持会の両方から支出するということになりました。写真は総会後の懇親会で、参加の皆さんと総代のみなさんが和気藹々と意見交換をしているところです。堅苦しいばかりの会ではありませんので、ぜひ皆さんもご参加ください。



大本山総持寺直末会

全久院は大本山総持寺の直末です。直末というのは、本山直系の寺ということです。全久院は明治2年に廃仏毀釈にあい、廃寺となりました。安曇野中で200ヶ寺以上の寺が廃寺となり、日本中でもこれほど徹底的に廃仏が行われた地域は他にありません。明治6年頃復興ののろしを上げるに当たり、一番先に廃寺にされ、廃仏毀釈の象徴ともなった全久院を、本山の禅師様の名で直接復興されました。そこで全久院は本山直系の寺となりました。その後安曇平のお寺が順次復興されました。

直末会は毎年1月初旬（本年は13日）に直末のお寺さまが本山に招集され、本尊様にお参りし、禅師様にご挨拶します。住職になって初めての本山へのご挨拶となりました。

お花祭り

松本仏教和合会（旧市内40ヶ寺）の主催でお釈迦様の誕生をお祝いするお祭りを、毎年5月第3日曜日に開催しています。まずは4月1日からの托鉢から始まります。土日を抜かし毎日、午前中40～50件それぞれの寺の檀家さん宅を回り、お仏壇の前、玄関先でお経を唱え、全部で1100件ほど回ります。全部の宗派、10～20人のお坊さんがそろってお参りします。来年は第100回の花祭りを迎えます。新しい市民芸術館で、21日前夜祭、22日本祭を開催する予定です。3メートルほどの白像の行列、お稚児さんの礼賛舞、仏教系幼稚園児のお遊戯など、さまざまな催しがあります。托鉢に来て欲しいなどご要望ありましたら、お知らせください。写真は檀家の水野家仏壇前の読経の様子です。



観音講

今年の観音講も1月17日から始まりました。1月は新年会ということで浅間温泉のいずみ荘で行いました。毎月17日の観音様の日、10時からです。お経を唱え、家族の幸福を祈り、ご詠歌を練習し、寺自家製の精進料理でお昼となります。今年から昔懐かしい唱歌を歌う時間も作りました。全久院の大黒がピアノ伴奏と歌唱指導をします。楽しく歌うのが目的ですので気軽に歌を一緒に歌えます。100年の歴史と新しい試みを織り交ぜながら、日ごろのいろいろな思いを皆さんで話すことで、元気を取り戻すことができると思います。ぜひご参加ください。電話でお申し込みください。



本山講旅行 能登 総持寺祖院

6月2~4日本年度の本山講で石川県能登の総持寺祖院に参拝して来ました。祖院は曹洞宗四世蚩山禅師により開かれ、明治30年の火災後、横浜鶴見の現在の地に移るまで、曹洞宗の本山として威容を誇っていました。蚩山禅師(けいざん)1268年11月21日、越前の国、瓜生氏の長男として生まれました。8才の時永平寺で得度、二世懐持禅師、三世義介禅師の元で激しい修行をし、27才の時、平常心是道の公案で悟りを開いたといわれています。「茶に逢うては茶を喫し、飯に逢うては飯を喫す」がその境地を表した言葉です。修行や悟りは特別なことでなく毎日のことである、と言い切って厳しい生活修行を続ける蚩山様の姿に、義介禅師は印可をくださったのです。その後多くの弟子が輩出し、また女性の出家も率先して行い、修行ばかりでなく人々の幸せを祈るご祈祷も行い、今日の曹洞宗の基礎を築きました。開祖道元禅師様ともども、曹洞宗の二祖様としてあがめられています。ぜひ蚩山禅師のことも覚えてください。58才でなくなり、遺偈は「自ラ耕シ自ラ作ス閑田地、幾度カ売り来リ買イ去リ信ナリ、限り無キ霊苗種熟脱ス、法堂上鋤ヲ挿ム人ヲ見ル」でした。自ら激しい修行で切り開いた境地に、後を継ぐものが次々と現れてきます。と述べられています。来年もこの時期に本山講を行います。お正月の配り物の中で案内します。ぜひご参加ください。写真は山門前の集合写真です。



第2回全久院座禅会にご参加を

2月21日初めての試みの座禅会を開きました。20分間の座禅を2回、その後、住職より座禅の説明、お粥と精進料理の夕食と続きました。参加者は6名でした。最後に懇親会を行って、今後のことを話し合いました。まずは事務局を開き、年に3回座禅会を開催することとなりました。座禅会の感想は、「大変良い経験でした。まだ何もわかりません。いろいろな人との話し合いが勉強になる。精進料理やお粥がおいしい。座禅を極めてみたい」など。写真は参加者全員での懇親会の模様です。

次回は8月21日(土)16時より 全久院にて開催します。内容は16時座禅指導、16時15分座禅、16時35分座禅2回目、17時座禅の話、17時30分お粥と精進料理

18時30分懇親会の予定です。ご希望の方は電話にてお申し込みください。

檀家さまどうしの交流をしたいと思います、ぜひ参加してください



本年も、お墓の掃除をして、その後懇親会を催したいと思います。昨年はじめて開催したところ15人の方が参加していただくことができました。左の写真は、汗をかいた後の懇親会の模様です。

7月24日(土) 16時より掃除 17時より夕

食を兼ねた懇親会 全久院の庭に集合

作業のできる服装でお越しください。厳粛な中でのふれあいでなく、汗をかきながらの作業や懇親です。堅苦しくないお寺の様子もわかっていただけるかと思ひます。参加希望の方は電話にてお申し込みください。

自宅や寺での法事に、お手伝いを派遣する計画練っています

自分への自戒も込め、現代の風潮を考えると、便利さを金で買う時代ということができると思ひます。社会の変化で、親戚も少なく、隣組も頼みずらく業者を頼まなければなりません。でも、便利になりすぎると、便利さと置き変えてしまった心や暖かさを取り戻したく思ふのも自然なことだと思ひます。自宅やお寺で法要をしたい、との要望も多く聞くようになりました。しかし、手が足りない。お寺で何とかしてもらえませんか。と問い合わせが増えてきます。

そこで、法要のための ① 掃除 ② 料理 ③ 賄い(茶やお酒や料理を出す) ④方付け ⑤ 費用は一人時給1000円以下程度 を請け負うグループを立ち上げようと思ひています。介護師の免許を持つ方もいます。

自宅や寺での法要、自宅・公民館・寺でのお葬式のお手伝いに駆けつけます。試行錯誤中ですので初めは皆様の思ふとおりにはないかと思ひますが、ご希望の方は全久院にお問い合わせください。7月から順次始めてゆきたいと思ひています。是非使ってみてください。檀家の皆さんと一緒にこのグループを育ててゆきたいと思ひています。

お盆のお知らせ お盆の季節が巡ってきます。東堂さんの体力が落ちて来ており住職が大部分の檀家さんを回る状況になっています。従来のお経日の予定を変更しながら今日に至っておりますので、今年のお盆をお知らせします。

8月	住職の回る範囲	東堂の回る範囲
9日	新盆のお宅	
10日	安曇、明科、麻績など超遠方	
11日	並柳、寿、塩尻、新村、二子、南松本など市外南部	笹部、征矢野
12日	筑摩、惣社、横田、岡田、沢村など市外北部	月見町、南原
13日	源地、県、清水、女鳥羽、浅間など市内北東部	宮村、埋橋、井川城
14日	北深志、蟻ヶ崎、丸の内、島内、白板など市内北西部	庄内、本庄
15日	留守だったお宅、鎌田、博労町、飯田町、本町	豊田町、南新町、井川城
16日	留守だったお宅	

住職は1日110件以上、東堂は20件をめどに回ります。朝7時から、夜10時くらいまで回ります。まだ、来ない、変だと思いの方は、15日までにお電話ください。あつてはいけない事ですが何かの拍子に飛び越して回ってしまったり、すれ違ったりしているかもしれません。15、16日の午前中にお留守だったところも含めて回ります。よろしくお願ひします。

ミニ知識

全久院報に毎回仏教や、曹洞宗、座禅など住職が学んだことを特集しようと思います。今回は曹洞宗の開祖道元禅師についてのミニ知識です。

生誕 1200年1月26日誕生

父 久我通親 母九条基房の娘・伊子の説が有力。(一説には木曾義仲の嫁とも言われている)

8才までに両親を失う

得度 13才 比叡山横川般若谷千光房にて

修行 15才 栄西(臨済宗の開祖)につく

疑團 「本来本法性 天然自性心」本来より人は皆悟りの中に居るというのに、どうして修行しなくてはいけないのか、という疑問を持ち激しい修行をされたと言われている。

中国へ 24才明全和尚と宗に渡る。阿育王山の老典座 倭搦(わしん)との問答が有名。

道元「あなたはお年だが、座禅弃道し、公案祖録などみたら。どうして典座職で専心苦役するのか。

何かよい功德でもおありか」、倭搦「外国の好人未だ弃道を了得せず、未だ文字を知得せざること有り」、道元「如何にあらんか是れ文字、如何にあらんか是れ弃道」、倭搦「若し問処を蹉過せずんば、豈其の人に非やざらんや。若し未だ了得せずんば、他時後日育王山に到れ、一番文字の道理を商量し去ること有らん。日晏れん忙ぎ去なん」、道元「真の道人なることを」日々の生活が、悟りの生活と理解した。その後中国での修行に激しさが加わった。

道如(官人富貴の出身だが極貧での修行に甘んじてる)より、「学道は先すべからく貧を学すべし」との教示を受ける。

西川出身の僧侶より、文字知識ではなく、人格完成が根源と習う。

隣単(座禅堂内の隣の座で修行する)の僧侶「大哉解脱服、無相福田衣(袈裟を着ける時のお経)・・・」に感動、仏法の大認は清規(修行中の規則のこと)の実践と知る。

など諸山を歴遊し多くの教示を受けた。

天童山へ 26才生涯の師と仰ぐ如浄(天童如浄)禅師につく。当時中国で1番の厳しい禅者だった。1226年9月18日如浄禅師より菩薩戒を受け、正式な弟子・出家者と認められた。1227年厳しい修行を経て、身心脱落の体験があった。身心脱落とは曹洞宗の座禅では最高の境地を意味し、身と心が一体になってひたすら座禅をする境地を意味しています。如浄禅師より印可を受け、日本への帰国を決意し、28才で帰国した。

{帰国後の道元禅師は次号へ}

